令和６（２０２４）年度佐久市いじめ問題対策連絡協議会（第１回）概要

日時：令和６年１１月１３日（水）午後１時３０分～

場所：佐久平交流センター第５会議室

１　出席者　藤森会長、芝野委員、赤羽委員、清水委員、島田委員、小林委員、石毛委員、佐々木委員、両澤委員、川島委員、三木委員、鷹野委員、甘利委員　　以上１３名

事務局　吉岡教育長、佐々木学校教育部長、藤巻学校教育課長、小林主幹指導主事、大井学務係長、高橋指導主事、菊池指導主事、原主事

事例発表　宮島浅間中学校長

２　議　事　（概ね２時間）

（１）令和６年度のいじめ問題対策連絡協議会の協議について

（２）国におけるいじめ防止対策の状況について

（３）佐久市におけるいじめの発生状況について

（４）各校におけるいじめの防止等の取組について（浅間中学校の事例発表）

３　いただいたご意見等

（１）いじめの認知件数については、経年で見ると小学校から中学校へ連動して増減しているのではないかと感じる。たとえいじめが解消している事案であっても、小中学校間で必要十分な情報共有、連携が必要では。

（２）佐久市のいじめの認知におけるきっかけは、全国と比べ学校の教職員が発見した件数が少なく、特にアンケートによって発見できた割合が低くなっている。事実関係を端的に聞くなど、子ども達が答えやすいアンケートにするなど工夫がもっと必要では。

（３）アンケートの実施では、整備された一人一台端末でフォームを活用するなど、取りまとめがなるべく簡単にできるような取組も検討されたい。

（４）実際の学校現場では、アンケートは単にいじめ認知というだけでなく、未然防止につながっている事例も多くあり、年に数回取り組んでいる。またアンケートだけでなく普段の会話や生活記録等のコミュニケーションを大切にしている。

（５）佐久市の保護者や地域の方は、まだ学校を信頼しており、誇り（愛着）を持っている方が多いと感じる。そういった中においては、地域の教育力、コミュニティスクールを活用していくこともいじめ対策につながると思う。

（６）子どもＳＯＳ相談フォーム「タッチ」の効果も今後出てくるのではないかと思う。活用に期待している。

（７）いじめによっては、本人も遊びの延長で、いじめられている認識がない場合もある。どういった状態がいじめに該当するのか、啓発することも大切では。

（８）いじめを誰が認知するのかという問題ももう一度考える必要があるのでは。

４　今後について

いただいたご意見を精査し、２月に開催予定の第２回協議会において、協議会としての本年度のいじめ防止等のための対策への意見のまとめを行う。